

要請訪問で見た“ペア学習のよさ”

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく申し上げます。

今年度、要請訪問Ⅰ及び要請訪問Ⅱ・Ⅲでは、多くの学校を訪問させていただきましたが、先生方が子供の学びを保障し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、児童生徒の実態に応じた様々な工夫を凝らして実践をされていることが伺えました。今回は、その中の「ペア学習」の実践の一部を紹介します。

明確な目的をもった「ペア学習」

＜一般的なペア学習のねらい＞

- ① 全体に話すのが苦手な子供も自信をもって話すことができるようにする。
- ② 二人で聞き合うことで、友達の意見をより深く理解できるようにする。
- ③ 全体での話し合いにつなげていく。

「ペア学習」は、学び合いを深める有効な手立ての一つです。明確な目的と指導の視点をもってペア学習を取り入れている授業は、子供達の話し合うことへの目的意識を高め、ペア学習後の学習に生かされていました。



一般的には上記のねらいが挙げられます。しかし、より効果的なペア学習を展開している先生は、ペア学習における思考の働きに着目して授業に臨んでいました。ペア学習で働かせる思考は何なのか、それによって育まれる力は何なのかを考えた時、上記の①・②・③のねらいでは不十分と言えます。ペア学習をさせる目的は、全体での話し合いに生かせる力を育むことです。子供達がペア学習での成果を発揮できるよう、そしてペアで話し合うことへの目的意識をもてるよう、以下のような思考の働きを促す教師の問いかけが有効です。

「この時間にペアで話し合う目的は、(以下①②③などを指示)です。」

- ① 自分の考えを確実に自分のものにする
- ② 隣の友達の考えを理解し、自分でも話せるようにすること
- ③ 二人の考えの違いや似ている点を見つけて、自分の考えに肉付けすること

「隣の友達と、〇〇(「説明」・「相談」・「確かめ」)しましょう。」

子供達に視点を明確にもたせる「ペア学習」例

○友達に「説明」する

- 自分の考えに対する説明(自分は〇〇だから、△△と考えた)
- 操作の方法に対する説明(自分は、〇〇するために△△を先に、次に□□を…)

○友達と「相談」する

- 分からないことに対する相談(ここは分かるけど、ここが分からないな)
- よりよい方法を導き出すための相談(もっとよい方法はないかな)
- どうなるかという予想に対する相談(この後どうなるのかな、これからどうしたいのかな)
- 自分の考えを伝えるための相談(こういう考えはどうか)
- 意見を要約するための相談(〇〇さんの考えをまとめると、～だね)
- よさを見つけるための相談(〇〇さんの考えのよさは何かな)

○友達と「確かめ」る

- 答えや考えに対する確認(自分はこう考えたけど、これでいいのかな)
- 自分の考えとの違う考えに対する確認(どうして違うのか、どこが違うのかな)
- 教師や友達の話を理解したかという確認(先生や友達の言ったことの3つは何かな)
- 友達の意見を再現できるかという確認(〇〇さんの話をもう一度言えるかな)
- 方法やその後の作業内容に対する確認(この方法で合っているのかな)

要請訪問での効果的だった「ペア学習」の流れと教師の支援例

① 最初に自分の気づきや考えを書く。

- ・ ここで書く目的は、結論を書かせることではなく、子供の思考過程を展開させるためであることを踏まえ、鉛筆の進み具合や子供の思考を促す言葉がけをする。

② ペア学習に入る。

- ・ ペア学習で話し合った内容は、この後の〇〇の学習につながることを伝え、子供達の目的意識を高めてから話し合わせる。
- ・ 話す人は自分のノートを閉じて教科書や資料を指さしながら、説明的に話すようにする。自分の考えを語るようにすることが重要であるので、ノートを読むのではなく、ノートに書かれた自分の考えを相手意識をもって伝えることができるようにする。
- ・ 聞く人は自分のノートを見て、友達の見解と比較しながら聞くようにする。このことで自分の意見だけでなく、友達の見解も自分の頭の中に批評的に入っていく力を育てていくようにする。
- ・ 最初は、各ペアの様子や話し合いの状況を見取り、見守る。
- ・ 中盤は、支援の必要なペアに入り、共に学ぶ一人として話し合いに加わる。
- ・ 後半は、机間を回り、各ペアがどのような思考をしているのか確認する。

最初にペアで話し合い、考えを整理したり広げたりしてから書く方法も有効です。

「話す・聞く」という学習能力を高める教師の関わり

「話す・聞く」という学習は、自分自身の学びを豊かにするだけにとどまらず、友達に学びの材料を与えたり、友達を励ましたりする力をもっています。「話す・聞く」という力を高めていくために重要なことは、子供達に実感を伴って「話す・聞く」という学習のもつ力について気付かせていくことなのです。要請訪問では、下記のような子供達に話し合うことの良いさを実感させ、学び合うことのできる学級であることを自覚させていく教師の価値付けの言葉が聞かれました。

- ・「〇〇さんは△△さんの発言から自分の考えをはっきりさせたんだね」
- ・「△△さんの考えは、どんなところがよいと感じたの？」
- ・「〇〇さんの発言は△△さんの発言に刺激されたんだね」
- ・「〇〇さんの意見は△△さんとは違う見方で面白い考えだね」



教師の意図的な価値付けが子供の学びを高めていきます。

一問多答の授業への転換

ペア学習を通して自分の考えをもたせ、その後の全体での話し合いで子供達が次々に発言していても、一問一答感がぬぐえなくなることがあります。これは、前の子供の発言に触発された発言になっていないことが原因として考えられます。

◎ 要請訪問で見られた子供達のよさ

- ・ 教師の発問に対して、子供達が自分の意見を述べるだけでなく、前の子供の意見をも踏まえて意見を述べている。
- ・ 意見が連なりながら発展して話し合っている。

→「私は〇〇だと思います。理由は〇〇です」といった話型（結論→理由）による指導などは、「話す・聞く」指導の基盤となりますが、子供達の思考過程に沿った子供らしい発言をしている学級では、安心感のある中で活発な発言や意見交換がなされ、豊かな言語感覚を養い、子供の思考を連続させていると感じました。

進学や進級に向けて、目標を共有し、学級全体の意識が高まる時期だからこそ、自ら学び、共に学び合う楽しさを十分に味わわせていく3学期にしていきたいと思います。

